

差別が生まれる構造

ハンセン病問題
から考える



2021年3月20日(土)・21日(日)

会場 アクロス福岡 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号
[一般券]500円 [弁護士参加協力券]2,000円

法律家と市民が
ともに学び交流する場

《1日目》
3月20日
開場 12:30

分科会
13:00~17:30

《2日目》
3月21日
開場 9:00

ひまわり一座
憲法劇
演出家 中嶋さと
[劇団] FOURTEEN PLUS 14+
9:30~10:00

全体会
10:00~13:00

シンポジウム テーマ
「差別が生まれる構造
—ハンセン病問題から考える—」

参加申込(チケット購入)はこちら <http://www.seihokyo.jp>

MAIL: info@seihokyo.jp TEL: 03-5366-1131 (青年法律家協会弁護士学者合同部会)

青年法律家協会 検索



前半 13:00~15:00

■ 原発を廃炉に! — 政策転換を求める原告一万人訴訟の取組み —

一万人原告訴訟である「原発なくそう!九州玄海訴訟」は、圧倒的な世論と福島原発の被害に依拠して勝つとの方針のもと周辺自治体と避難計画等について意見交換・交渉を行っています。圧倒的な世論を背景にした闘いについて討議します。

■ 人権活動と法律事務所の経営の両立をどう進めるか

後半にも
同テーマ開催

— アフターコロナを見据えて —

弁護士人口の増加の影響もあり、法律事務所における経営環境は厳しさを増している中で、人権活動を担う事務所をどう維持・発展させていくかは重要な課題となっている。新型コロナウイルス感染の拡大により、裁判期日の取消や面談による相談件数の減少など、弁護士を取り巻く状況は一層厳しくなる中で、テレワークやオンラインによる相談・打ち合わせなど司法の分野で遅れているIT化の推進も喫緊の課題となっている。分科会では、厳しい経営環境の中で、事務所の経営を守りながら人権活動に取り組む事務所の実践を交流し、法律事務所の将来的方向性を探る。

■ 裁判必勝法 VOL.5 — 先人・職人の智慧があなたに! —

後半にも
同テーマ開催

勝つのが困難だがどうしても勝たなければならない事件に勝った先人からその秘訣を余すところなく語っていただく。青法協のディーナレッジを後輩が受け継ぐ分科会。毎回3名のレジェンドをお呼びし縦横無尽に語って頂く人気の分科会で、今回で5回目を数える。特に、智慧を身につけたい若手はぜひ。

後半 15:30~17:30

■ 憲法カフェの広め方(第2弾)

前回好評企画の第2弾!今回は、学校での主権者教育をメインに、経験豊富な講師による授業の報告、現場教員との意見交換等を行います。また、主権者教育・憲法カフェについての質疑応答コーナー、各地報告等も予定。盛況山の企画です!

■ 法政策形成型訴訟のススメ

司法判断を根拠に国に法律や政策を変更させ被害者全員の救済、再発防止策をとらせ、さらには関連する社会制度全般の改革を目標とする「法政策形成訴訟」について、ハンセン病訴訟、薬害肝炎訴訟などの実践を紹介し、新たな展望を討議する。

■ 石木ダムは要らない — 起業地居住者の半世紀を超えた闘い —

1962年以降、長崎県・佐世保市により、長崎県東彼杵郡川棚町を流れる石木川に石木ダムを建設する計画が策定された。起業地(水没予定地)に現に居住する13世帯は、この石木ダム事業と、半世紀以上に亘る闘い(運動・裁判等)を展開しており、現在もその闘いは続いている。この分科会では、その内容と到達点、今後の展望等を報告し、意見交換を行う。報告者は、弁護士複数名、現地居住者、及び、専門家を予定している。

■ デモと弁護士の役割

— 路上からオンラインまで多様化するデモの中で表現の自由を守るために —

新型コロナウイルスの感染拡大により、市民運動も変化と工夫を余儀なくされています。この分科会では、これまでの集会、デモと弁護士の活動を発表するとともに、SNSを利用した新たな運動とそこで生じる法律問題について考えてみたいと思います。

■ 若者の労働問題について

ブラック企業被害対策弁護士団がこれまでにやってきた若者の労働問題についての活動(訴訟、ウェブを利用した啓蒙活動等)を報告すると共に、未来の若者達の働き方についての提言を行う。

■ 同性婚の早期法制化を!

— 同性婚の早期法制化の必要性和私達にできること —

後半「理不尽な校則NO!」
とのセット講演

「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟は、同性婚の早期法制化を目指しています。法律婚ができないこと自体が構造的差別の原因にもなっていること、差別の解消や同性婚の早期法制化のために、私達が今できることについて考えます。

■ 今こそ再審法制の大改革を!

— 大崎事件にみる現行刑法の問題点から、あるべき再審法制を問う —

過去に3度も再審開始決定を得ながら、今なお未解決の大崎事件。その背景には、無実の者を救うための再審制度が機能不全に陥っている現実がある。そこで、大崎事件をとらえて再審制度の問題点をあぶり出し、あるべき再審法制を展望する。

■ 理不尽な校則NO! — 人権の視点で子どもを取り巻く環境を考える —

理不尽な校則、部活動、不必要な性差を強いる制服など、学校では子どもの権利が十分に尊重されているとは言い難い状況にあります。弁護士、教育に携わる者、保護者として、子ども達のために何が出来るのか一緒に考えたいと思います。

■ 沖縄の米軍・自衛隊基地問題

米軍基地建設問題(辺野古)の裏で進む、南西諸島全体(奄美、宮古、石垣など)への自衛隊配備。専守防衛の実力部隊から脱皮しようとする自衛隊と20年を経て普天間飛行場代替施設から大きく位置づけが変わった辺野古新基地建設の現在を米軍と自衛隊の一体化の観点から考えていきます。

※各分科会の詳細についてはWebサイトでお知らせいたします。

1989年から福岡市を中心に憲法の真の価値を訴え続けているユニークな演劇集団「ひまわり一座」による公演

演出家 中嶋さと
[劇団] FOURTEEN PLUS 14+

9:30~10:00

シンポジウム テーマ

「差別が生まれる構造 — ハンセン病問題から考える」

10:00~13:00

シンポジウム メンバー

《パネリスト》



どりあん すけがわ
ドリアン助川
作家・歌手
明治学院大学教授



とくだ やすゆき
徳田靖之
弁護士



のぶ かずとし
延和聰
盈進中学高等学校校長



ファン・グワンナム
黄光男
ハンセン病家族
訴訟原告団副団長



ごとう みずき
後藤泉希
大学生



さかた ともこ
迫田朋子
ジャーナリスト

《コーディネーター》



ひまわり一座による憲法劇「茶色の朝」

会場へのアクセス



会場

アクロス福岡

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号



電車

地下鉄空港線「天神駅」16番出口より直通
地下鉄空港線「中洲川端駅」1番出口より徒歩5分
地下鉄七隈線「天神南駅」5番出口より徒歩5分
西鉄天神大牟田線「西鉄福岡(天神)駅」北口より徒歩10分



お問い合わせ先

青年法律家協会弁護士学者合同部会

☎ 03-5366-1131 ☎ 03-5366-1141

✉ info@seihokyo.jp

http://www.seihokyo.jp

青年法律家協会

検索

